The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	石狩湾新港地域における新産業創出に向けたプロジェクト形成とアントレプレナーの役割
Author(s)	谷藤, 真琴
Citation	大阪大学, 2024, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/98798
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

様式３

論　文　内　容　の　要　旨

氏　名　（　谷　藤　真　琴　　）	
論文題名	石狩湾新港地域における新産業創出に向けたプロジェクト形成とアントレプレナーの役割

論文内容の要旨

本研究は，北海道石狩湾新港地域における新産業創出プロジェクトの形成と，そこにおけるアントレプレナーの役割を分析することを目的とした．

第１章では，研究の背景と論文の構成を説明し，目的と意義を述べるとともに研究の新規性を言及した．

第２章では，石狩地域の概要を説明した．特に石狩湾新港には数多くの企業の立地が進んでおり，複合集積が進行している．更にインフラが充実している．陸運・海運・物流や新エネルギーの拠点となっているため，本研究の事例として最適であった．こうした石狩湾新港地域の環境は地域でパイロット・スタディが起きやすい土壌であることが示され，多様なプロジェクトが創発し，計画される「プロジェクト型地域」であることが明確となった．

第３章では，研究方法を明記し分析対象である「雪氷熱エネルギー・プロジェクト」，「データセンタ・プロジェクト」の２つの事例を示した．

第４章では，雪氷熱エネルギー・プロジェクトを事例として，場の機能の検討を行なった．その結果，「場」を構成する５つの機能は，ヒトの集まりとしての「場」も組織のように機能するための条件であるが，アジェンダ，情報のキャリア，メンバーシップ，解釈コード，連帯欲求は，地域プロジェクトを実現する可能性が高まれば高まるほど，さらにプロジェクトのビジネス・ドメインが明確化すればするほど，その過程で「場」の拡張に影響を与えていることがわかった．

第５章では，自律協働システムとしての「場」について，事例を活用しながらシステム・ダイナミクス分析を行い，理論的含意の導出を試みた．プロジェクトに参画するプロジェクト・メンバー組織に協働領域への関与に対し「メンバーシップ」と「アジェンダ」を基礎としたインハウス誘因と持ち帰り誘因が機能していることが明らかとなった．

第６章では，アントレプレナーの選択肢形成には共通の目的を持った組織が相互に調整しながら，創発的なイノベーションによってもたらされるためには，地域という資源の制約がアントレプレナーの選択肢形成に作用する可能性があることが明らかにされた．

第７章では，プロジェクトの立ち上げにおけるアントレプレナーの役割を明確にした．そこで形成されるプラットフォームが持続可能な製品やサービスを示す中核的な存在になっていることを示している．アントレプレナーは，プロジェクトのメンバーがすでに持っている資源を活用することで，常に一つのプラットフォームに留まることなく移動し，イノベーションに関連する資源や情報を獲得する可能性を示した．アントレプレナーはプロジェクトを渡り歩くプロジェクト・ホッパーとして機能することが地域プロジェクトの創造の連鎖に最も貢献することを示唆している．

第８章では、本研究から①第三セクターの役割を果たす主体がアントレプレナーとして場を形成し，発展させることが重要である，②地域プロジェクトを創発するには場の形成が有効である，③自律と協働の関係を考慮することによってプロジェクトに参画する組織間の関係性が決定する，④プロジェクト・ホッパーとしてのアントレプレナーがプラットフォームを創出し地域発展に貢献する可能性がある，という主要な４つの結論を得た．

本研究の新規性は，①地域の環境整備というマクロな視点よりプロジェクトというミクロな視点に着目して地域の新産業創出の議論，②プロジェクトの形成プロセスについて事例を用いて丁寧な記述，③プロジェクトの推進主体であるアントレプレナーを個人だけではなく組織にも当てはめた点，④属人的になりがちなプロジェクトの議論をより一般化したこと，にある．また本研究の理論的含意は，①自律協働システムの概念をプロジェクトに発展させ議論した点，②プラットフォームの形成をダイナミックにとらえ「ダイナミック・プラットフォーム」という概念を導入した点，③プロジェクト・ホッパーという新たな概念を導出した点，である．以上，本研究の意義は理論と実践の両面でインプリケーションを導いていることにある．

様式 7

論文審査の結果の要旨及び担当者

氏　名　（　谷藤　真琴　）		
論文審査担当者	（職）	氏　名
	主 査　教 授	上西　啓介
	副 査　教 授	倉敷　哲生
	副 査　教 授	木多　道宏

論文審査の結果の要旨

地域においては新産業創出などにより地域を活性化することを目的に，多数のプロジェクトが創出されている．一方で，そのプロジェクトを成功させ地域の活性化につなげるには，地域プロジェクトならではの多くの課題を克服する必要がある．本論文では，多数のプロジェクトが創発され，結果として数多くの企業の立地が進み，複合集積化が進んだ事例として知られている北海道石狩湾新港地域における新産業創出プロジェクトを題材に，地域におけるプロジェクトの形成と，そこでの「場」の機能とアントレプレナーの役割を分析することを目的としている．

以下に本研究で得られた成果を要約する．

(1) 「雪氷熱エネルギー・プロジェクト」と「データセンタ・プロジェクト」の２つの事例について，当事者らへのインタビュー調査などを行い，各プロジェクトの形成プロセスを整理，記述している．整理した事例を，「場の機能」という観点から分析した結果，場の５つの機能である①アジェンダ，②情報のキャリア，③メンバーシップ，④解釈コード，⑤連帯欲求は，地域プロジェクトを実現する可能性が高まるほど，さらにプロジェクトのビジネス・ドメインが明確化するほど，その過程で場の拡張に影響を与えることを明らかにしている．

(2) 「場」を自律協働システムとして捉え，調査事例についてシステム・ダイナミクス分析を行い，理論的含意の導出を試みている．その結果，プロジェクトに関わる各組織の自律（本務）と協働（プロジェクト）の関係を考慮することにより，プロジェクトに参画する組織間の関係性が決定すること，またプロジェクトの活性化には，プロジェクトの場における①アジェンダと③メンバーシップを基礎としたインハウス誘因と持ち帰り誘因が機能したことを明らかにしている．

(3) プロジェクトの立ち上げプロセスにおけるアントレプレナーの役割という視点で事例を考察した結果，主に第三セクターがアントレプレナーとして，地域資源の特徴や制約を理解ながら地域開発の選択肢を増やす役割を担い，プロジェクトメンバーが持つ資源を活用し，イノベーションに関連する資源や情報を獲得するプロジェクト・ホッパーとしての機能を担うことが，地域プロジェクトの創造の連鎖に貢献する可能性を論じている．

以上のように，本論文は①地域の環境整備というマクロな視点だけでなく，各プロジェクトというミクロな視点に着目して地域の新産業創出を議論していること，②単一のプロジェクト事例の成否だけでなく，その形成プロセスや関連について整理記述していること，③プロジェクトの推進主体であるアントレプレナーを個人だけではなく組織にも適用していること，④属人的になりがちなプロジェクトの議論をより一般化したことにおいて新規性があり，今後の地域開発プロジェクトの成功と地域の活性化に対し，理論と実践の両面から新たな知見を与えるものであると考えられる．

よって本論文は博士論文として価値あるものと認める．